

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和5年1月17日

協議会名: 小樽市地域公共交通活性化協議会

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
北海道中央バス株式会社	<p>○塩谷線 本局前～長橋中学校～塩谷海岸 運行回数:9,258.5回</p> <p>○祝津線 小樽駅前～赤岩～おたる水族館 運行回数:7,605.0回</p> <p>○小樽ベイビュータウン線 小樽駅前～朝里町～ベイビュータウン 運行回数:121.0回</p> <p>○山手中通線 小樽駅前～入船公園～小樽駅前 運行回数:726.0回</p> <p>○新光・ぱるて築港線 済生会小樽病院～ぱるて築港～小樽自動車学校前 運行回数:1,133.0回</p> <p>○おたる水族館線 本局前～小樽駅前～おたる水族館 運行回数:2,424.5回</p> <p>○朝里川温泉線 小樽駅前～朝里町～朝里川温泉 運行回数:7,876.0回</p> <p>○銭函・桂岡線① 銭函浄水場～銭函駅前 運行回数:2,766.0回</p> <p>○銭函・桂岡線② 銭函浄水場～銭函駅前～銭函パークゴルフ場 運行回数:964.0回</p>	<p>バスロケーションシステムの周知PRキャンペーン等、地域公共交通網形成計画に基づく利用促進策を継続して実施した。</p>	<p>A 概ね計画どおり事業は適切に実施された。</p>	<p>B 計画申請時の目標を住民1人当たりの年間利用回数70回以上としていたが、61.89回となった。</p> <p>(R4の年間輸送人員6,748,744人/人口(R4.9月末の総人口109,038人)</p> <p>長引くコロナ禍の中、まん延防止措置の外、感染者や濃厚接触者の増による外出自粛等の影響により、バス利用者の減少が続いていることが考えられる。</p>	<p>利用者の増に向けて、利便性の強化を図るとともに、HPやSNSを活用した広報活動等の利用促進策を実施していく。</p> <p>引き続きバス車内の清掃、消毒、換気等、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策の徹底に努める。</p>

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和5年1月17日

協議会名： 小樽市地域公共交通活性化協議会

評価対象事業名： 地域内フィーダー系統確保維持国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点 (特記事項を含む)
北海道中央バス株式会社	<ul style="list-style-type: none"> ○小樽・桂岡線 小樽駅前～小樽築港駅前～桂岡中央公園 運行回数:1,083.0回 ○おたもい線 本局前～幸3丁目～おたもい入口 運行回数:10,870.5回 ○ばるて築港線① 小樽駅前～済生会小樽病院～ばるて築港 運行回数:828.5回 ○ばるて築港線② 小樽駅前～済生会小樽病院～新日本海フェリー 運行回数:121.0回 ○ばるて築港線③ 小樽駅前～市立病院～ばるて築港 運行回数:920.5回 ○ばるて築港線④ 小樽駅前～市立病院～新日本海フェリー 運行回数:428.5回 ○最上・ばるて築港線 最上町～済生会小樽病院～ばるて築港 運行回数:1,601.0回 				

事業実施と生活交通確保維持改善計画との関連について

令和5年1月17日

協議会名:	小樽市地域公共交通活性化協議会
評価対象事業名:	地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金
地域の交通の目指す姿 (事業実施の目的・必要性)	<p>小樽市の交通は鉄道、路線バス、タクシーで構成されており、市内を東西に走る鉄道が幹線の役割を果たし、さらに市内にくまなく張りめぐらされたバス路線網とこれを補完するタクシーが、地域内における移動手段として、それぞれ、通勤・通学・通院・買い物等の住民生活において、重要な役割を果たしている。</p> <p>しかしながら市内の路線バスは、人口減少、自家用車の普及により年々利用者が減少、収支が悪化し、維持が困難な状況となっている。このため、地域内フィーダー系統確保維持計画を策定し、地域住民の移動手段を確保する。</p>